

建築工事施工管理基準

平成 2 4 年 4 月 1 日適用

目 次

建築工事施工管理基準

1. 目的
2. 適用
3. 構成
4. 用語の意義
5. 管理の実施
6. 管理項目及び方法
7. 規格値
8. その他

出来形管理基準及び規格値

1. 共通設備工
 - 2－2－4－1 仮設足場
 - 2－2－4－2 仮囲い、ガードフェンス
2. 土工事
 - 3－2－1 根掘
 - 3－2－3 埋戻し及び盛土
 - 3－3－1 仮土留
3. 地業工事
 - 4－3・4・5 既製コンクリート杭、H 鋼杭、場所打杭工
 - 4－6－3・4 切込砂利、碎石基礎、割栗石、均しコンクリート
4. 鉄筋工事
 - 5－3－5－1 鉄筋組立、スペーサー配置数
5. コンクリート工事
 - 6－9－4 型枠の加工及び組立
 - 6－1 7 出来形管理
 - 6－1 8 アンカーボルト工
6. 鉄骨工事
 - 7－1－3－1 T 継手の隙間、重ね継手の隙間、突合せ継手の食違い
 - － 2 ルート間隔
 - － 3 ルート面、ベベル角度
 - － 4 開先角度

- 5 切断面の粗さ、切断面のノッチ（切目）・深さ
- 6 切断による切断縁の直角度
- 7 仕口のずれ（ダイヤフラムとフランジのずれ）、溶接組立材端部の不揃い
- 8 高力ボルト、ボルト孔相互の間隔
- 9 孔の食違い、高力ボルト接合部の肌すき
- 10 孔のはしあき、へりあき
- 7-6-7-1 隅肉溶接のサイズ、余盛高さ
- 2 完全溶け込み溶接突合せ継手の余盛の高さ、完全溶け込み溶接 T 継手の余盛の高さ
- 3 アンダーカット、突合せ継手の食違い
- 4 仕口のずれ（ダイヤフラムとフランジのずれ）
- 5 ビード表面の不陸
- 6 ピット、スタッド溶接後の仕上り高さと傾き
- 7-10-5-1 梁の長さ、柱の長さ
- 2 階高
- 3 梁の曲がり、柱の曲がり
- 4 せい、幅
- 5 箱形断面・H 形断面の直角度
- 6 ウェブの心ずれ、曲がり
- 7 仕口部の角度、長さ
- 8 柱のねじれ、メタルタッチ
- 9 ベースプレートの折れ及び凹凸
- 10 建物の倒れ、わん曲
- 11 通り心とアンカーボルトの位置ずれ、柱据付面の高さ
- 12 現場継手階の階高、梁の水平度
- 13 柱の倒れ

7. コンクリートブロック、ALC パネル、押出成形セメント板工事

- | | |
|-------|-----------------|
| 8-3-7 | 開口部、ブロック積 |
| 8-4-3 | ALC パネル欠損 |
| 8-5-5 | パネルの開口限度 |
| 9-5-1 | シート接合幅、施工面積 |
| 9-5-3 | 防水層の貼り方・層厚・施工面積 |

8. 石工事

1 0 - 1 下地面の精度

9. タイル工事

1 1 - 1 - 3 外装タイルの目地幅、タイル種類別最小目地幅、タイル張面積

1 0. 木工事

1 2 - 2 - 1 木材の含水率

1 2 - 6 面積、高さ

1 1. 屋根及び樋工事

1 3 - 2・3・4 - 3 屋根勾配、野縁高さ

1 2. 金属工事

1 4 - 2 - 3 鉄の亜鉛メッキ付着量

1 4 - 8 - 2 - (b) 手すり

1 3. 左官工事

1 5 - 2 塗 厚

1 4. 建具工事

1 6 - 1 - 3 防火シャッター

1 6 - 6 - 3 寸法許容差

1 6 - 1 0 - 4 鋼製シャッター取付寸法許容差

1 6 - 1 3 - 3 単板ガラス厚、複層ガラス厚

1 5. カーテンウォール工事

1 7 - 3 - 5 PC カーテンウォール製作精度許容値
取付位置関係の寸法許容差

1 6. 塗装工事

1 8 - 1 - 7 現場塗装工

17. 内装工事

19-1-2 シックハウス

18. ユニット及びその他の工事

20-2-3 可動間仕切の遮音性能

20-2-4 移動間仕切の遮音性能

20-2-5-(d) トイレブースの寸法

20-3-4 プレキャスト擁壁工

20-4-3 コンクリートブロック工・石積（張）工

20-5-3 敷地境界石標

19. 排水工事

21-3-3-1 側溝工（U形・L形・VS・管）

－2 現場打水路工

－3 暗渠工

－4 プレキャストカルバート工（BOX、パイプ）

20. 舗装工事

22-3-2-1 アスファルト舗装工（下層路盤）

－2 アスファルト舗装工（上層路盤）

22-4-5 アスファルト舗装工（表層工）

22-3-2-1 コンクリート舗装工（下層路盤）

－2 コンクリート舗装工（粒度調整路盤工）

22-5-4 コンクリート舗装工（コンクリート舗装版工）

22-6-5-1 薄層カラー舗装工（下層路盤工）

－2 薄層カラー舗装工（上層路盤工・粒度調整路盤工）

－3 薄層カラー舗装工（基層工）

22-7-5-1 透水性舗装工（路盤工）

－2 透水性舗装工（表層工）

22-8-5-1 排水性舗装工（下層路盤工）

－2 排水性舗装工（上層路盤工・粒度調整路盤工）

－3 排水性舗装工（基層工）

－4 排水性舗装工（表層工）

- 2 2 - 9 - 4 - 1 ブロック舗装工（下層路盤工）
- 2 ブロック舗装工（上層路盤工）
- 3 ブロック舗装工（基層工）
- 2 2 - 1 0 - 3 - 1 縁石工（縁石、アスカーブ）
- 2 側溝工（U 型・L 型・VS・管）
- 3 現場打水路工
- 4 集水桝工
- 5 暗渠工
- 6 プレキャストカルバート工（ボックス・パイプ）

2 1. 植栽及び屋上緑化工事

- 2 3 - 3 - 2 植栽工
- 2 4 - 4 - 3 芝張工

建築工事施工管理基準

この建築工事施工管理基準（以下、「管理基準」とする。）は、「公共建築工事標準仕様書」に規定する建築工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

1 目 的

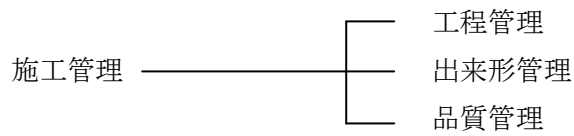
この管理基準は、建築工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2 適 用

この管理基準は、小諸市が発注する建築工事について適用する。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準が定められていない工種については、監督員等と協議のうえ、施工管理を行うものとする。

3 構 成

施工管理の構成は、下記によるものとする。



4 用語の意義

用語の意義は次のとおりである。

（１）工程管理とは

工事に必要な資材の調達、労務者の手配を考慮し、工事施工完成に必要な作業の手順及び日程を定めて、工程表を作成し、更に工事の実施過程において計画と実績を比較検討し、工期内に工事が完成するように必要な措置をすること。

（２）出来形管理とは

施工する建築物の出来形（形状、寸法など）を把握するために、建築物の寸法、凹凸、勾配、基準高を施工の順序に従い直接測定し、その都度その結果を管理図表や一覧表に記録し、出来形を確保するために必要な措置を行うこと。

（３）品質管理とは

工事用資材や構造物等の品質を把握するために、物理的、科学的試験を実施し、その都度その結果を管理図表や一覧表に記録し、良好な品質を確保するために必要な措置を行うこと。

5 管理の実施

- (1) 請負者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 請負者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 請負者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員等の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

6 管理項目及び方法

(1) 工程管理

請負者は、工程管理を工事内容に応じた方式（ネットワーク（PERT）又は棒線方式など）により作成した実施工程表により行うものとする。但し、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

(2) 出来形管理

請負者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形成果表又は出来形図を作成し管理するものとする。但し、測定数が10点未満の場合は出来形成果表のみとし、出来形図の作成は不要とする。

(3) 品質管理

請負者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理、その管理内容に応じて、工程能力図又は、品質管理図表（ヒストグラム、 $\bar{x}-R$ 、 $\bar{x}-R_s-R_m$ など）を作成するものとする。但し、測定数が10点未満の場合は品質管理表のみとし、品質管理図の作成は不要とする。

この品質管理基準の適用は、下記に掲げる工種①～③の条件に該当する工事を除き、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

7 規 格 値

請負者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

8 そ の 他

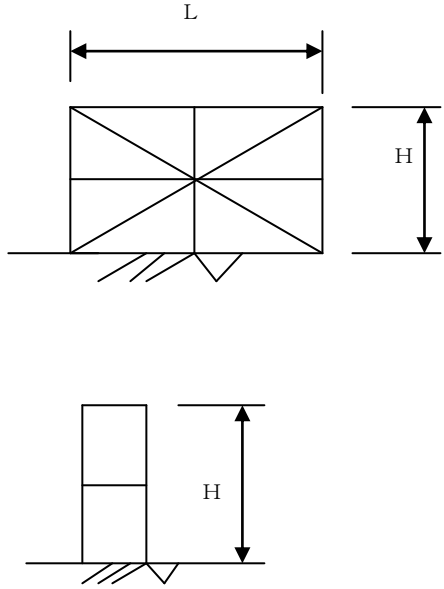
請負者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員等の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

出来形管理基準及び規格値

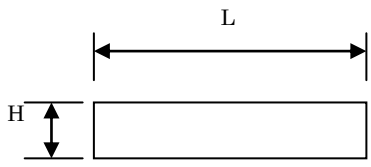
出来形管理基準及び規格値

1. 共通設備工

(単位：mm)

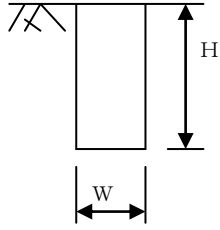
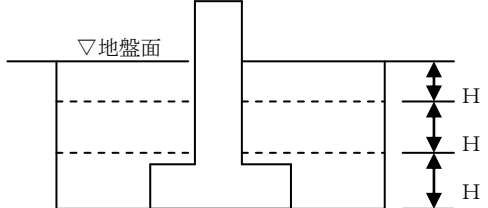
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2	2	4	1	仮設足場	設置高さ：H 設置延長：L 設置面積：A	設計値＋300 設計値＋300	全数を測定		

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2 仮 設 工 事	2 縄 張 り ・ 遣 り 方 ・ 足 場 そ の 他	4 足 場 そ の 他	2	仮囲い・ガード フェンス	設置高さ：H 設置延長：L	設計値＋300 設計値＋300	全数を測定	 The diagram shows a rectangle representing a fence section. A horizontal double-headed arrow above the rectangle is labeled 'L', indicating the length. A vertical double-headed arrow to the left of the rectangle is labeled 'H', indicating the height.	

2. 土工事

(単位：mm)

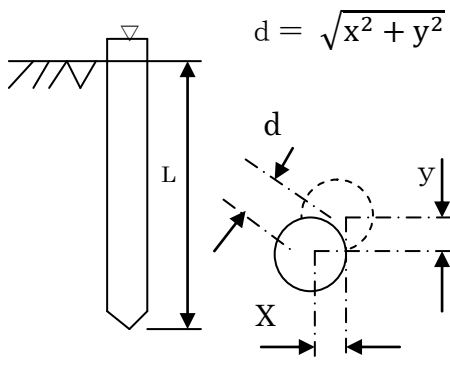
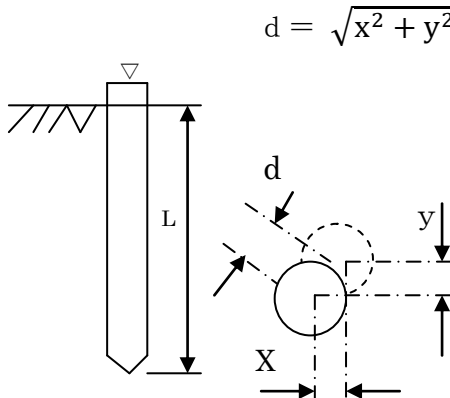
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3	2	1		根 掘	根掘深さ：H 根掘幅：W	± 3 0 — 5 0	施工延長おおむね 5 0 m（測点間隔 2 0 m の場合は 4 0 m）につき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。		上水道出来形管理基準準用。
		3		埋戻し及び盛土	仕上厚さ：H	± 3 0	施工延長おおむね 5 0 m（測点間隔 2 0 m の場合は 4 0 m）につき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。		

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3	3	1		仮土留	基準高 杭間隔：B 延長：L 深さ：H 根入長：D 矢板厚さ：t 土留設置面積：A	±100 +100 設計値以上 ±30 設計値以上 設計値以上 +0以上	全数測定	The diagram illustrates the construction of temporary sheet piles. The top part is a plan view showing three sheet piles spaced at distance B, with a total length L. The thickness of the sheet pile is labeled as t. The bottom part is an elevation view showing the sheet piles driven into the ground to a depth D. The height of the sheet pile above ground is H. The area of the sheet pile is labeled as A. The bottom of the sheet pile is labeled as '掘削底面' (excavation bottom surface).	土木工事施工管理基準準用。

3. 地業工事

(単位：mm)

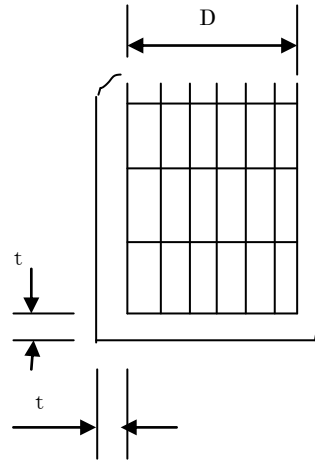
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
4	3 ・ 4 ・ 5			既製杭工 (既製コンクリート杭) (H 鋼杭)	基準高：▽ 偏心量：d 根入長：L	± 5 0 D / 4 以 内 か つ 1 0 0 以 内 設計値以上	全数について杭 中心で測定。 D は杭径	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	土木工事施工 管理基準（下 水道適用）
				場所打杭工	基準高：▽ 偏心量：d 根入長：L 杭径	± 5 0 D / 4 以 内 か つ 1 0 0 以 内 設計値以上 設計値以上	全数について杭 中心で測定。 D は杭径	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
4	6	3		切込砂利、碎石基礎、割栗石、均しコンクリート	幅 : W 厚さ : t 1、t 2 延長 : L	設計値以上 － 3 0 設計値以上	施工延長 4 0 m につき 1 箇所。 4 0 m 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		土木工事施工管理基準 準用。

4. 鉄筋工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
5	鉄筋工事	3	5	鉄筋組立	平均間隔：d かぶり：t	±φ ±φかつ最少かぶり以上	$d = D / (n - 1)$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径		土木工事施工管理基準準用。
					スぺーサー配置数	下表5.3.5.2による。	全箇所設置個数測定。		

5. 3. 5 . 1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				最少かぶり厚さ (単位：mm)
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁、耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			*40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

注1：*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。

2：「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

3：スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さは含まない。

4：杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

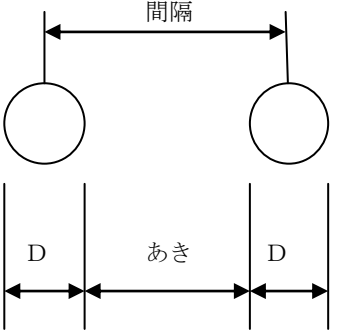
5：塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

5. 3. 5. 2 スペーサー等の種類及び数量・配置の標準

部位	種類	数量または配置
スラブ	鋼製 コンクリート製	上端筋：1. 3 個／ m^2 程度。 下端筋：1. 3 個／ m^2 程度。
梁	鋼製 コンクリート製	間隔：1. 5 m以内 端部：1. 5 m以内
柱	鋼製 コンクリート製	上段：梁下より0. 5 m程度 中断：柱脚と上段の間 柱幅方向：1. 0 mまで2 個、1. 0 m以上3 個
基礎	鋼製 コンクリート製	面積：4 m^2 程度：8 個 面積：16 m^2 程度：20 個
基礎梁	鋼製 コンクリート製	間隔：1. 5 m以内 端部：1. 5 m以内
壁・地下外壁	鋼製 コンクリート製	上段：梁下より0. 5 m程度 中断：上段より1. 5 m間隔程度 横間隔：1. 5 m程度 端部：1. 5 m以内

- 1) 梁、柱、基礎梁・地下外壁は、側面に限りプラスチック製でもよい。
- 2) 断熱材打込み時のスペーサーは、支持重量に対してめり込まない程度の接触面積をもったものとする。

異形棒鋼のあき・間隔の最小寸法

異形棒鋼	あ き	間 隔
	次のうちの大きいほうの数値 ・呼び名の数値の 1. 5 倍 ・粗骨材最大寸法の 1. 2 5 倍 ・ 2 5 mm	次のうち大きいほうの数値 ・呼び名に用いた数値の 1. 5 倍+最外径 ・ 2 5 mm+最外径

鉄筋加工寸法の許容差

(単位：mm)

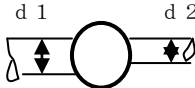
項 目			計画供用期間の級	
			一般・標準	長 期
各加工寸法	主 筋	D 2 5 以下	± 1 5	± 1 0
		D 2 9 以上 D 4 1 以下	± 2 0	± 1 5
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		± 5	± 5
加工後の全長			± 2 0	± 1 5

鉄筋の定着及び重ね継手長

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	重ね継手長さ [L 1]	定着の長さ		
			一般 [L 2]	下端筋 [L 3]	
				小梁	屋根・床スラブ
SD 295 A	30・33・36	35 d (25 d)	30 d (20 d)	25 d (15 d)	10 d かつ 150 mm 以上
SD 295 B	21・24・27	40 d (30 d)	35 d (25 d)		
SD 345	18	45 d (35 d)	40 d・30 d		
SD 390	30・33・36	40 d (30 d)	35 d (25 d)		
	21・24・27	45 d (35 d)	40 d・30 d		

- 1). () 内は、180° フック付き長さを示す。
- 2). 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い鉄筋の呼名 (D) による。
- 3). 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
- 4). D 29 以上の鉄筋は、杭主筋を除き、原則重ね継手としない。

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
5 鉄 筋 工 事	4 ガ ス 圧 接	3 圧接部の品質		ガ ス 圧 接 継手	圧接位置の離れ：L	400以上	全数測定。	  $L = 400 \text{ mm 以上}$  $d1 - d2 \leq 5 \text{ mm 以内}$  $\Delta = 3 \text{ mm 以下}$ SD490の $\Delta = 2 \text{ mm 以下}$	
		4 圧接一般							
		6 圧接端面			圧接鉄筋径差： $d1 - d2$	5 以内			
		9 圧接完了後の試験			圧接端面の隙間： Δ ・SD490 ・SD490以外	2 以下 3 以下			
					圧接部の合否判定は下表による。				

5. 4. 9. (1) 圧接部の外観検査の合否判定基準

外観検査項目	合否判定	
	手動・自動ガス圧接法	熱間押抜ガス圧接法
圧接部のふくらみの直径 (D)	$D \geq 1.4d$ (SD490は $D \geq 1.5d$)	_____
圧接部のふくらみの長さ (L)	$L \geq 1.1d$ (SD490は $L \geq 1.2d$)	$L \geq 1.1d$ (SD490は $L \geq 1.2d$)
圧接面のずれ (δ)	$\delta \leq d/4$	_____
圧接部における鉄筋中心軸の偏心量 (e)	$e \leq d/5$	$e \leq d/5$
折れ曲がり (θ)	$\theta < 3.5^\circ$	_____
押抜部の表面	_____	割れ、へこみ、表面不整があつてはならない。
その他有害と認められる欠陥	著しい焼き割れ、へこみ (4mm以下)、垂れ下がり (6mm以下)	具体的な記載はなし。

5. 4. 9. (2). (i) (ii) 圧接部の検査

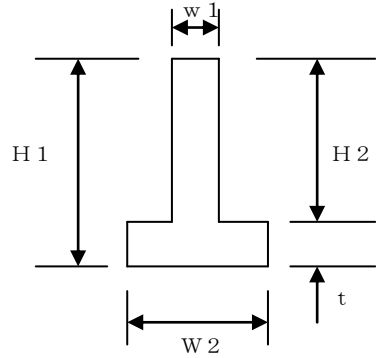
	試験種別	再圧接	信頼性	試験数※1. 2	良否判定
超音波探傷試験	非破壊	なし	試験者の技量に依存	30箇所／ロット	即判定可
引張試験	破壊試験	あり	直接的に品質確認	3本／ロット	時間が掛る

※1：一般的な試験箇所数である。

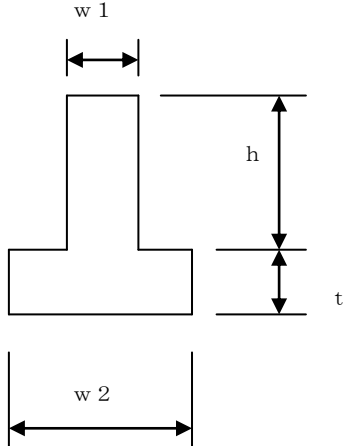
※2：1検査ロットの大きさは、1組の作業班が1日に施工した箇所数。

5. コンクリート工事

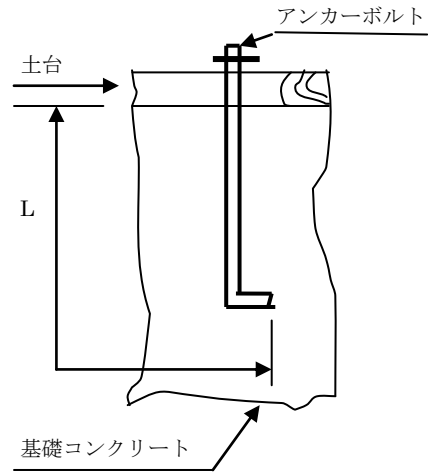
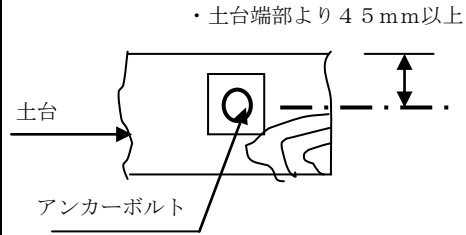
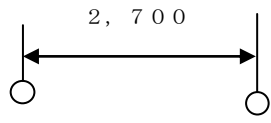
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
6	9	4		型枠の加工及び組立	高さ：H1 H2 幅：w1 w2 厚さ：t 延長：L	+5～+10mm +5～+10mm +5～+10mm +5～+10mm以上 +5～+10mm 設計値以上	施工延長40m につき1箇所。 40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		

(単位：mm)

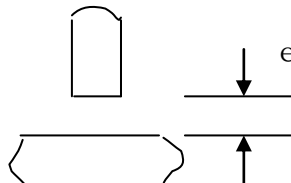
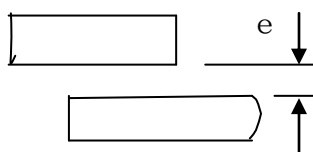
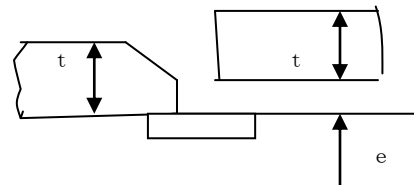
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
6	17			軀 体	基準高：▽ 幅：w 1、w 2 厚さ：t 高さ：h 延長：L	± 3 0 － 3 0 － 3 0 － 3 0 設計値以上	施工延長 4 0 m につき 1 箇所、 それ以下は 1 施 工個所につき 2 箇所。		土木工事施 工管理基準 準用。

(単位：mm)

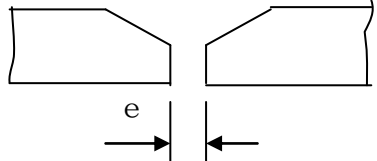
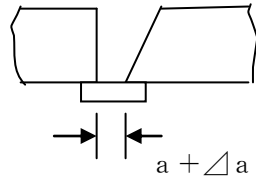
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
6	18			アンカーボルト工	埋込み長さ：L	250以上 400以上 200以上	・公庫仕様書適用。 ・JASS11では太筋かい付部に適用する。 ・筋かい部または、筋かい無部に適用する。		
					土台端部からの離れ	45以上	全数測定		
					アンカーボルトの設置間隔	2,700	全数測定		

6. 鉄骨工事

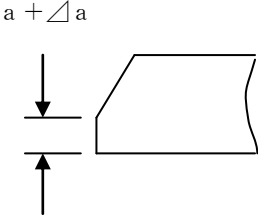
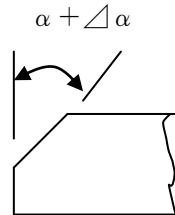
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	
7	鉄 骨 工 事	1	3	鉄 骨 製 作 工 場	T 継手の隙間	T 継手の空き	$e \leq 3$	主用部材全数を測定。		JASS6 鉄骨精度検査基準
					重ね継手の隙間	すき間	$e \leq 3$			
					突合わせ継手の食違い	食違い	$t \leq 15$ の場合 $e \leq 2$			

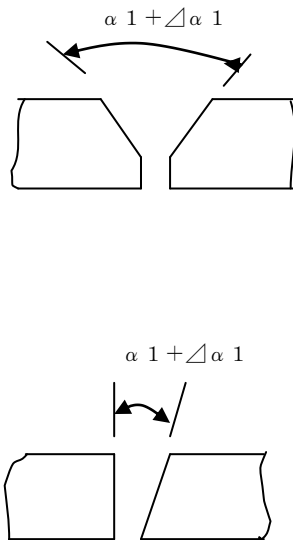
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	鉄 骨 工 事	1 一 般 事 項	3 鉄 骨 製 作 工 場	2 ル ー ト 間 隔	離隔	被覆アーク溶接 $0 \leq e \leq 2.5$ サブマージアーク自動溶接 $0 \leq e \leq 1$ ガスシールドアーク溶接 $0 \leq e \leq 2$ セルフシールドアーク溶接 $0 \leq e \leq 2$	主用部材全 数を測定。		
						被覆アーク溶接・ガスシールド アーク溶接・セルフシールドア ーク溶接 $\angle a \geq -2$ サブマージアーク自動溶接 $-2 \leq \angle a$ $\leq +2$			

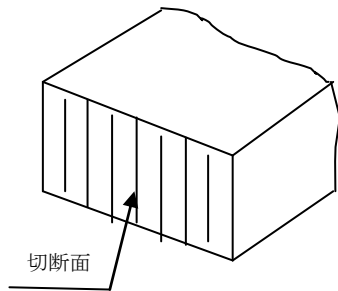
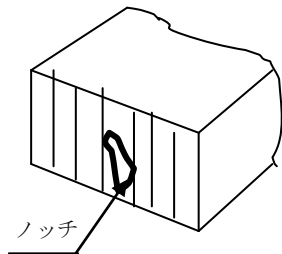
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	
7	鉄 骨 工 事	1	3	鉄 骨 製 作 工 場	ルート面	ルート寸法	被覆アーク溶接・ ガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接 裏当て金なし $\triangle a \geq 2$ 裏当て金あり $\triangle a \geq 1$ サブマージアーク 自動溶接 $\triangle a \leq 2$	主用部材全数を測定。		
					ベベル角度	開先角度			$\triangle \alpha \geq -2.5^\circ$	

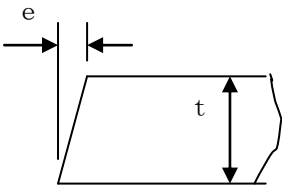
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	1	3	4	開先角度	角度	$\angle \alpha 1 \geq -5^{\circ}$ $\angle \alpha 2 \geq -2.5^{\circ}$	主用部材全数を測定。		

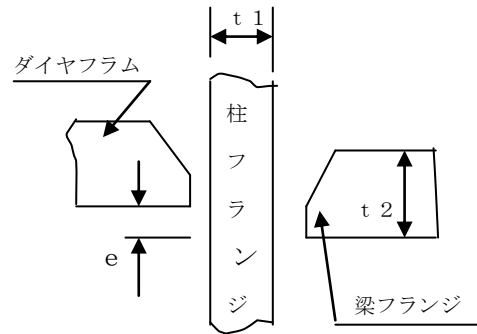
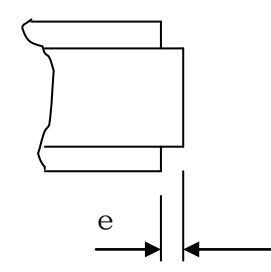
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	
7	鉄 骨 工 事	1	3	鉄 骨 製 作 工 場	切断面のあらさ	深さ	開先内 1 0 0 μ m R z 以下 自由縁端 1 0 0 μ m R z 以下	主用部材全数を測定。		
					切断面のノッチ（切目）深さ	切削傷深さ	開先内 d ≦ 0 . 5 自由縁端 d ≦ 0 . 5			

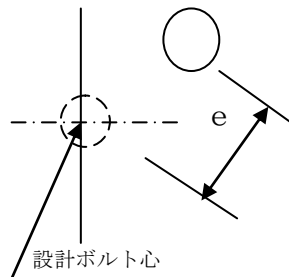
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	1	3	6	切断による切断 縁の直角度	切断面の傾斜	$t \leq 4.0$ $e \leq 1$ $t > 4.0$ $e \leq t / 4.0$ かつ $e \leq 1.5$	主用部材全数を 測定。		

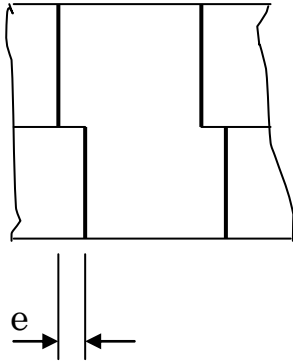
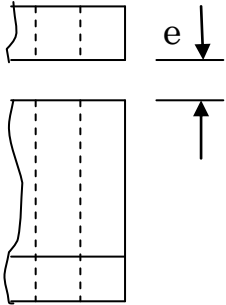
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	鉄 骨 工 事	1	3	鉄 骨 製 作 工 場	仕口のずれ (ダイヤフラム とフランジのず れ)	$t_1 \geq t_2$ $e \leq 2 t_1 / 15$ かつ $e \leq 3$ $t_1 < t_2$ $e \leq t_1 / 6$ かつ $e \leq 4$	主用部材全数を 測定。		
					溶接組立材端部 の不揃い	$e \leq 2$			

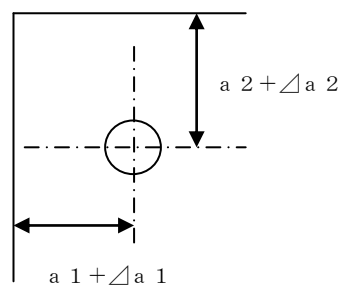
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	
7	鉄 骨 工 事	1	3	鉄 骨 製 作 工 場	8	高力ボルト	孔の心ずれ	$e \leq 1$	主用部材全数を測定。	
						孔相互の間隔	間隔	$-1 \leq \Delta P$ $\leq +1$		

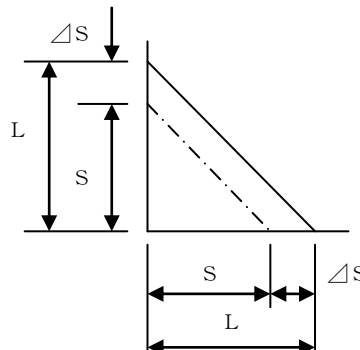
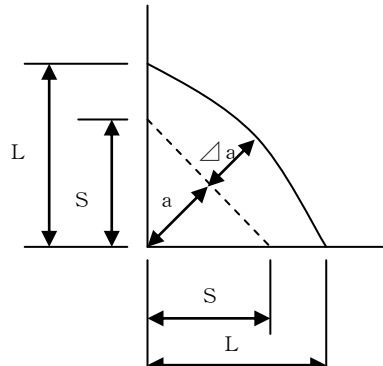
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	鉄 骨 工 事	1 一 般 事 項	3 鉄 骨 製 作 工 場	9	孔の食い違い	食い違い寸法	$e \leq 1$		
					高力ボルト接合部の肌すき	すき間	$e \leq 1$		
									

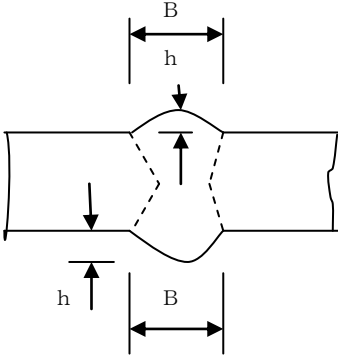
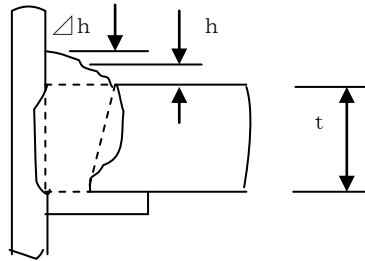
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	1	3	1 0	孔のはしあき・ へりあき	端部からの離れ	$\triangle a_1 \geq -2$ $\triangle a_2 \geq -2$ かつ「鋼構造設計 基準、高力ボルト 接合設計、施工ガ イドブック」の最 少縁端距離を満足 すること。	主用部材全数を 測定。		

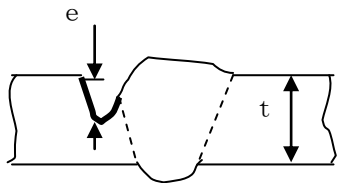
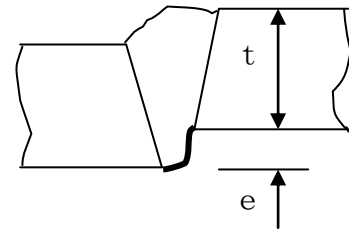
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7 鉄 骨 工 事	6 溶 接 接 合	7 溶 接 施 工	1	隅肉溶接のサイ ズ	脚長	$0 \leq \Delta S \leq 0.5 S$ かつ $\Delta S \leq 5$	主用部材全数を 測定。		
				隅肉溶接の余盛 の高さ	余盛高	$0 \leq \Delta a \leq 0.4 S$ かつ $\Delta a \leq 4$			

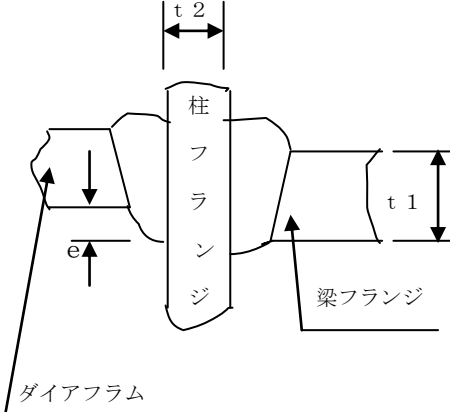
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	鉄骨工事	溶接施工	2	完全溶込み溶接 突合せ継手の余盛の高さ	余盛高	$B < 15$ $0 < h \leq 3$ $15 \leq B < 25$ $0 < h \leq 4$ $25 \leq B$ $0 < h \leq (4/25)B$	主用部材全数を測定。		
				完全溶け込み溶接T継手の余盛の高さ	余盛高	$t \leq 40 \text{ (} h = t/4 \text{)}$ $0 \leq \Delta h \leq 7$ $t > 40 \text{ (} h = 10 \text{)}$ $0 \leq \Delta h \leq t/4 - 3$			

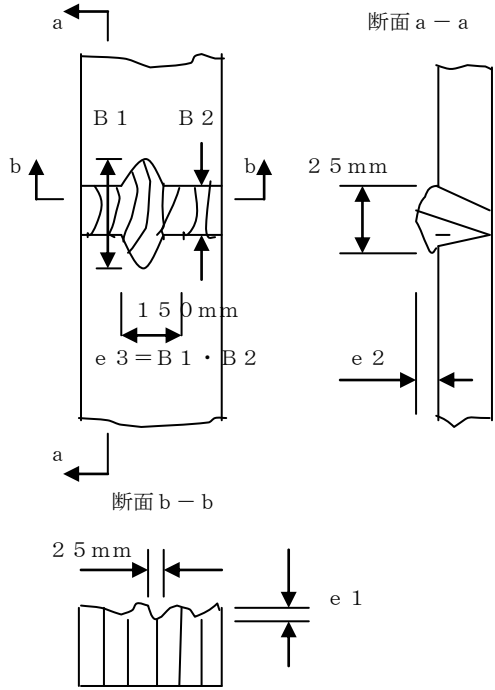
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要			
7	鉄骨工事	6	溶接施工	7	溶接施工	3	アンダーカット	溝	完全溶け込み溶接 $e \leq 0.3$ 前面隅肉溶接 $e \leq 0.3$ 側面隅肉溶接 $e \leq 0.5$ ただし、上記の数値を超え、0.7以下の場合、溶接長300あたり総長さが30以下かつ1箇所の長さが3以下は許容できる。	主用部材全数を測定。		
						突合せ継手の食違い	食違い量 $t \leq 15$ $e \leq 1$ $t > 15$ $e \leq t / 15$ かつ $e \leq 2$					

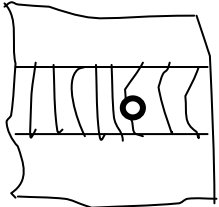
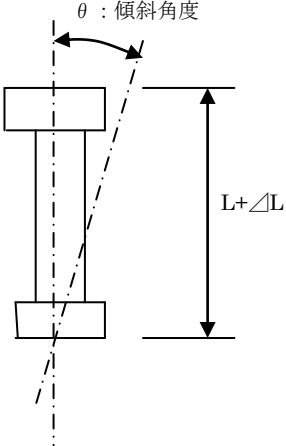
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	6	7	4	仕口のずれ (ダイヤフラム とフランジのず れ)	ずれ	$t_1 \geq t_2$ $e \leq 2 t_1 / 1.5$ かつ $e \leq 3$ $t_1 < t_2$ $e \leq t_1 / 6$ かつ $e \leq 2$	主用部材全数を 測定。		

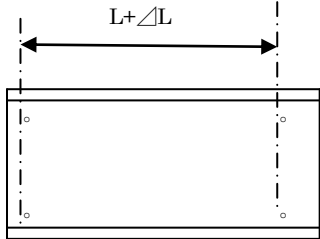
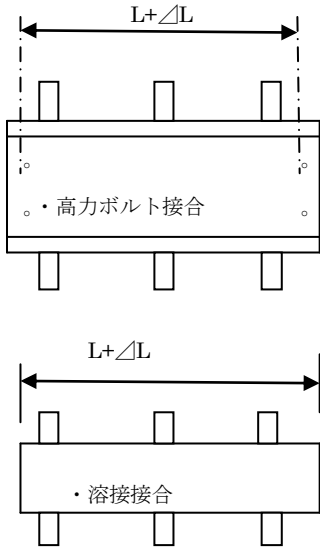
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	6	7	5	ビード表面の不整	高低差	ビード表面の凹凸の高低差 e_1 、 e_2 は溶接の長さ、または、ビード幅 25 の範囲で 2.5 以下。ビード幅の不整 e_3 は溶接の長さ 150 の範囲で 5 以下。	主用部材全数を測定。		

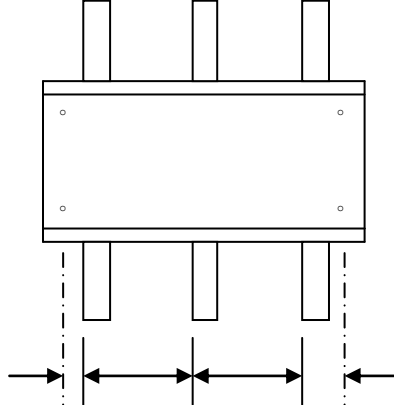
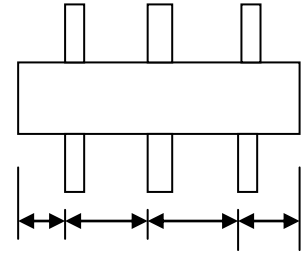
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7 鉄 骨 工 事	6 溶 接 接 合	7 溶 接 施 工	6	ピット	くぼみ穴	溶接長300 あたり1個以下、 ただし、ピットの 大きさが1以下 のものは3個を1 個として計算す る。	主用部材全数を 測定。		
				スタッド溶接後 の仕上り高さ と傾き	傾斜角度	$-1.5 \leq \angle L \leq +1.5$ $\theta \leq 3^\circ$			

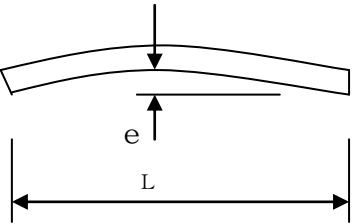
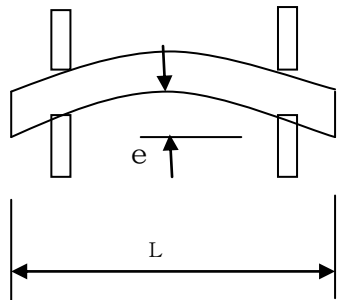
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	1	梁の長さ	長さ	$-3 \leq \Delta L \leq +3$	製品の長さが10m以上のものは所定の張力をかけて計測する。10m未満は手引きで測定する。		
				柱の長さ	長さ	$L < 10\text{ m}$ $-3 \leq \Delta L \leq +3$ $L \geq 10\text{ m}$ $-4 \leq \Delta L \leq +4$	製品の長さが10m以上のものは所定の張力をかけて計測する。10m未満は手引きで測定する。		

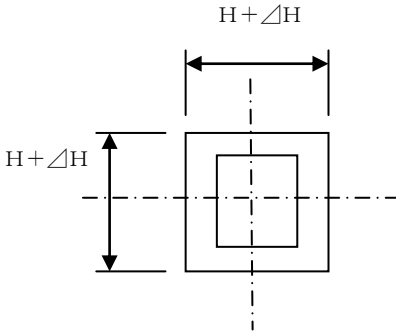
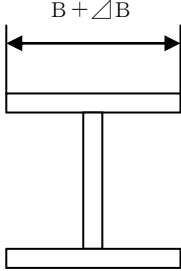
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	2	階 高		$-3 \leq \angle L \leq +3$	主用部材全 数を測定。	・高力ボルト接合  $L4 + \angle L4$ $L3 + \angle L3$ $L2 + \angle L2$ $L1 + \angle L1$ ・溶接接合  $L4 + \angle L4$ $L3 + \angle L3$ $L2 + \angle L2$ $L1 + \angle L1$	

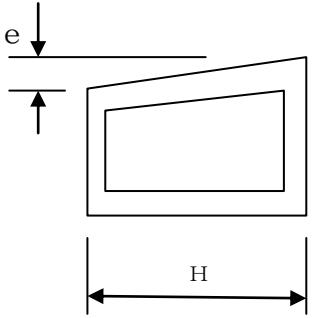
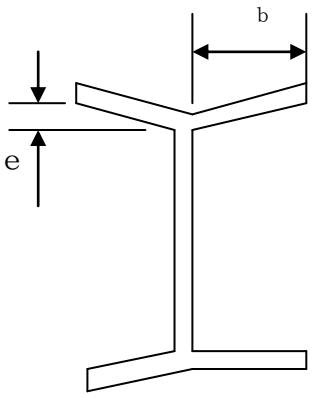
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7 鉄 骨 工 事	1 0 工 事 現 場 施 工	5 建 方	3	梁の曲がり	縦距	$e \leq L / 1000$ かつ $e \leq 10$	主用部材全数を 測定。		
				柱の曲がり	縦距	$e \leq L / 1500$ かつ $e \leq 5$			

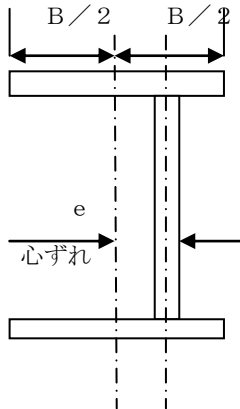
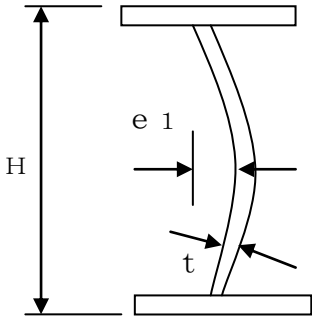
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	4	せ い		$H < 800$ $-2 \leq \Delta H \leq +2$ $H \geq 800$ $-3 \leq \Delta H \leq +3$	主用部材全数 を測定。		
				幅		$-2 \leq \Delta B \leq +2$			

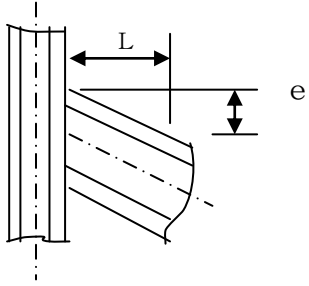
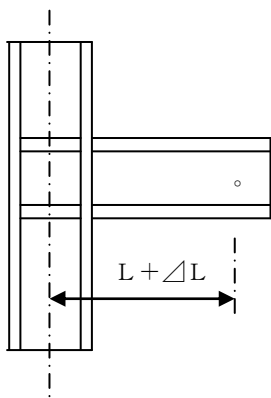
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	5	箱形断面の直角度		接合部 $e \leq H / 100$ かつ $e \leq 2$ 一般部 $e \leq 2H / 100$ かつ $e \leq 4$	主用部材全数を測定。		
				H形断面の直角度	偏奇量	接合部 $e \leq b / 100$ かつ $e \leq 1$ 一般部 $e \leq 2b / 100$ かつ $e \leq 2$			

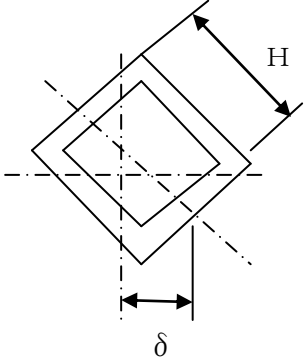
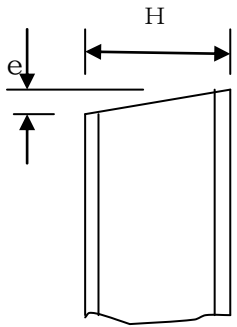
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	6	ウェブの心ずれ	心ずれ	$e \leq 2$	主用部材全数を測定。		
				ウェブの曲がり	縦距	$e_1 \leq H / 150$ かつ $e_1 \leq 4$ $e_2 \leq B / 150$ かつ $e_2 \leq 4$ ただし、 $t \leq 6$ には適用しない。			

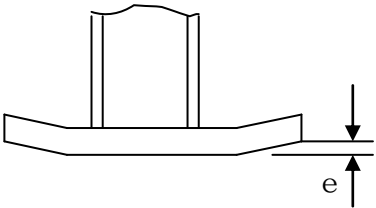
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	7	仕口部の角度		$e_1, e_2 \leq L/300$ かつ $e_1, e_2 \leq 3,$ $e_3 \leq 4$	主用部材全数を測定。		
				仕口部の長さ		$-3 \leq \Delta L \leq +3$			

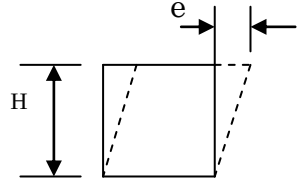
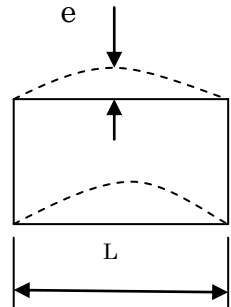
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	8	柱のねじれ		$\delta \leq 6H / 1000$ かつ $\delta \leq 5$	主用部材全数を測定。		
				メタルタツチ		$e \leq 1.5H / 1000$			

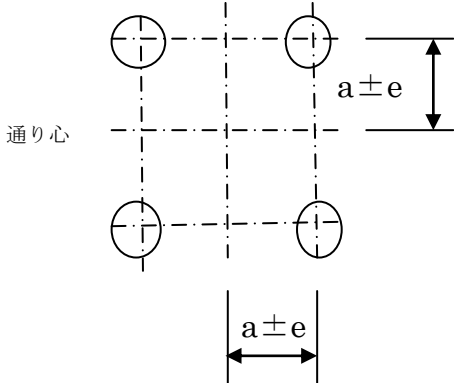
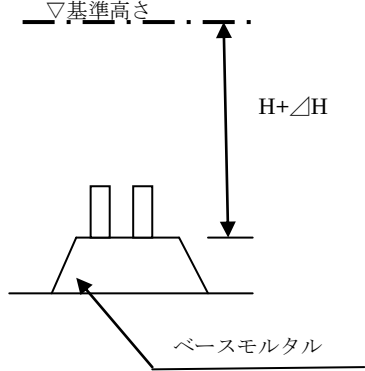
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	9	ベースプレート の折れ 及び凹凸		$e \leq 2$	主用部材全数を 測定。		

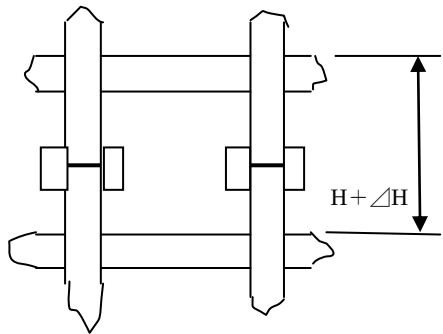
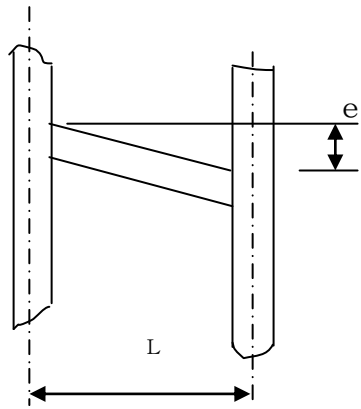
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	1 0	5	1 0	建物の倒れ	離れ e	$e \leq 30$	主用部材全数を測定。		
				建物のわん曲	わん曲、 e	$e \leq 20$			

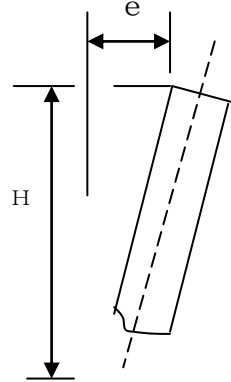
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	10	5	11	通り心とアンカーボルトの位置のずれ	通り心とのずれ	構造用アンカーボルト $-3 \leq e \leq +3$ 建方用アンカーボルト $-5 \leq e \leq +5$	主用部材全数を測定。	通り心 	
				柱据付面の高さ	据付面の高さ	$-3 \leq \angle H \leq +3$			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7	1 0	5	1 2	現場継手階の 階高	継手階の階高	$-5 \leq \Delta H \leq +5$	主用部材全数を 測定。		
				梁の水平度	水平狂い	$e \leq L / 100$ + 3 かつ $e \leq 10$			

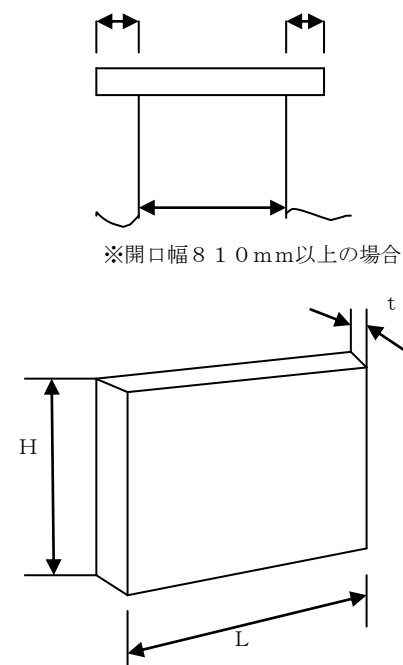
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
7 鉄 骨 工 事	1 0 工 事 現 場 施 工	5 建 方	1 3	柱の倒れ	傾斜距離 e	$e \leq H / 1000$ かつ $e \leq 10$	主用部材全数を 測定。		

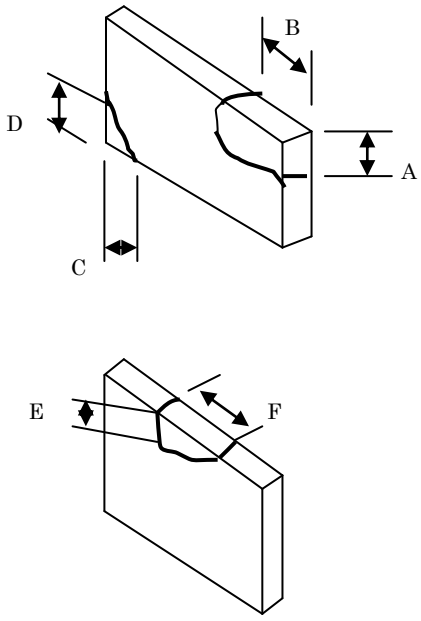
7. コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

(単位：mm)

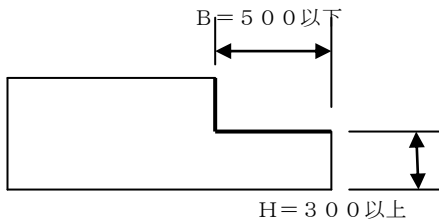
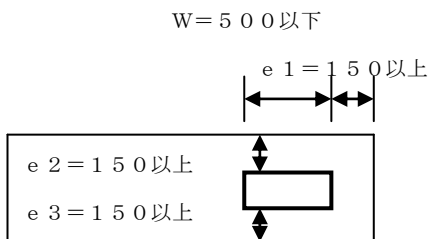
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
8	3	7		開口部	まぐさの掛代: B (開口幅 810 mm以上)	200 以上	全箇所測定。	B = 200 mm以上	
コン	コン	ブ							
クリ	リン	ロック							
ート	ク	ック							
ブ	リ	ク							
ッ	ー	積		ブロック積み	高さ: H	± 30			
ク・	ト	等			延長: L	設計値以上			
ALC	ブ				厚さ: t				
パ	ネ				H < 2 m	120			
ネル・	ロック				H > 2 m	150			
押	ッ								
出	ク								
成	帳								
形	壁								
セ	及								
メン	び								
ト	堀								
板									
工事									



(単位：mm)

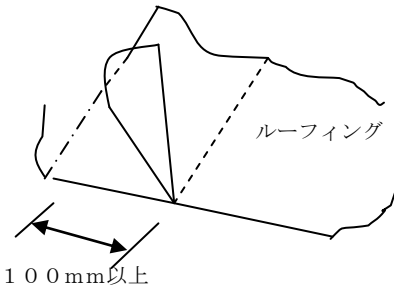
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
8	4	3		ALC パネル	角欠け		全数測定		
コン	A	外		欠損	・パネル長さ方 向の欠け	$A \leq 80$ $B \leq 300$			
クリ	L	壁			・パネル幅方向 の欠け	$C \leq 80$ $D \leq h/2$			
ート	C	パ							
ブ	パ	ネル							
ッ	ネル	工							
ク・	ル	法							
ALC									
パネ					側面の欠け	$E \leq 40$ $F \leq 300$			
ル・押									
出成									
形セ									
メン									
ト板									
工事									

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
8	5	5		パネルの開 口限度	欠込限度 ・ 隅切：B ：H	500以下 300以上	全数測定。	 B = 500以下 H = 300以上	
コン クリ ート ブ ロ ッ ク ・ ALC パネ ル ・ 押出 成形 セメ ント 板工 事	押 出 成 形 セ メ ン ト 板 (E C P)	溝 掘 り 及 び 開 部 の 処 理			パネル上の開口 パネル端部から ：e1 パネル上部から ：e2 パネル下端から ：e3 切込長：w	150以上 150以上 150以上 辺長500以下		 W = 500以下 e1 = 150以上 e2 = 150以上 e3 = 150以上	

8. 防水工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
9	5	3		防水層の貼り方	重ね幅	100以上	2箇所／1継手断面		
防	塗	防		防水層厚	長手、幅方向 材料厚さ	設計厚さ≦施工厚さ	1箇所／100㎡、 施工面積が100㎡以下 は2箇所		
水	膜	水		防水層施工面積	各施工延長	設計値≦施工値	全施工箇所		
工	防	層							
事	水	の							
		種							
		別							
		及							
		び							
		工							
		程							

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
9	5	1		シート接合幅	・ 加 硫 ゴ ム 系 シ ー ト 接合幅 平場長手、幅 平場と立上り ・ 塩化ビニル樹脂系シ ー ト 接合幅 平場長手、幅 平場と立上り ・ エチレン酢酸ビニル樹 脂系シート 平場長手、幅 平場と立上り シート施工面積 各施工延長	 + 1 0 0 + 1 5 0 + 4 0 + 4 0 + 1 0 0 + 1 0 0 設計値以上	全箇所測定。	接合幅 接着剤 テープ状 シーリング材 プライマー	

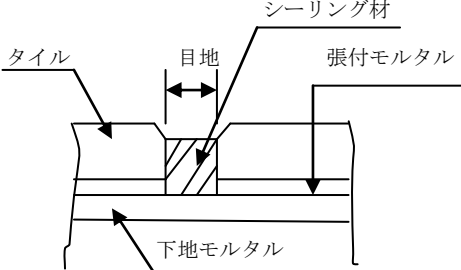
9. 石工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
10	1			下地面の精度	外壁湿式工法	外壁：±15	全箇所測定。		
石	一				乾式工法	外壁：±10 内壁：±10			
工	般				内壁空積工法	内壁：±15			
事	事				床及び階段の石	床：±10			
事	項				張り				

10. タイル工事

(単位：mm)

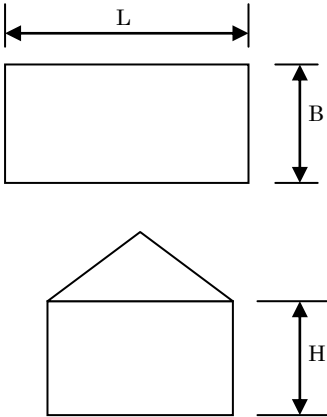
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
11 タ イ ル 工 事	1 一 般 事 項	3 伸 縮 調 整 目 地 及 び ヒ ビ 割 れ 誘 発 目 地		外装タイルの目 地幅	外装タイル モザイクタイル 内装タイル 床タイル	8～10mm 4～5mm 2～3mm 6～10mm	全施工箇所。		
				タイル種類別 最小目地幅	50角 50二庁 小口 二丁掛 三丁掛	3mm 3mm 7mm 7mm 8mm			
				タイル張面積	縦、横の延長	設計面積<施工面積			

1 1. 木工事

(単位：mm)

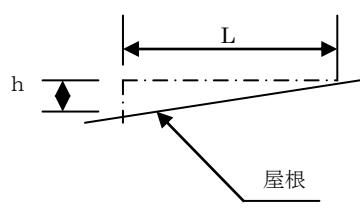
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
1 2	2	1		木材の含水率	構造材 A 種 B 種 下地材 A 種 B 種 造作材 A 種 B 種	2 0 %以下 2 5 %以下 1 5 %以下 2 0 %以下 1 5 %以下 1 8 %以下	全数測定。	・デジタル表示機器は、木材の繊維方向と測定部の電極方向が同じになるように置いて測定。	

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
1 2	6			面 積 高 さ	縦延長：B 横延長：L 天井高：H	設計寸法≦実測寸法 設計寸法≦実測寸法	全箇所測定。		

1 2. 屋根及びとい工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
1 3	2	3		屋根勾配	水平長：L 高さ：h	設計勾配＝実測勾配	全箇所測定。		
屋 根 及 び と い 工 事	長 尺 金 属 板 葺 3 折 板 葺 4 粘 土 瓦 葺	工 法		野縁高さ	軒高さ：H	設計軒高 ≤ 実測軒高			

①屋根葺き材料・勾配

☆管理 1 一屋根勾配は適切か。

屋根葺きの仕様

仕様 屋根葺きの種類		山 高 働き高さ (mm)	流れ長さ (m)	最小勾配				板 厚 (mm)	
				一 般	寒 冷	多 雪	極 寒	鋼 板 ステンレス	鋼 板
金 属 板 葺 き	一文字葺き 菱葺き	—	0～20	3／10	3.5／10	3.5／10	3.5／10	0.4 以上	0.35 以上 谷部0.4 以上
	長尺瓦棒葺 き(立はぜ葺 き)	30～ 45	0～10	1.5 ／10	2／10	3／10	3／10	0.4 以上谷部 は0.5 以上	0.3以 上 谷部は 0.4 以上
			10～30	2／10	2.5／10	3／10	3／10		
		45～ 80	0～10	1／20	1／10	2／10	2／10		
			10～40	1／10	2／10	3／10	3／10		
	折板葺き	80～ 120	0～10	1／50	1／50	1／30	1／50	山高80～ 145 は0.6 以上	—
			10～40	1／30	1／30	1／30	1／30		
		120 ～ 160	0～10	1 100	1／50	1／30	1／50		
			10～25	1／50	1／50	1／30	1／50		

金 属 板 葺 き	折板葺き		25～50	1／30	1／30	1／30	1／30	山高145 以上は0.8 以上	
		160 以上	0～20	1 100	1／50	1／30	1／50		
			20～50	1／50	1／50	1／30	1／50		
	横葺き (段葺き)	—	0～30	3／10	3／10	3／10	3／10	0.4 以上	0.4以 上
	ステンレス シート溶接 葺き	—	0～50	1／50	1／50	1／50	1／50	0.4 以上	—

13. 金属工事

(単位：mm)

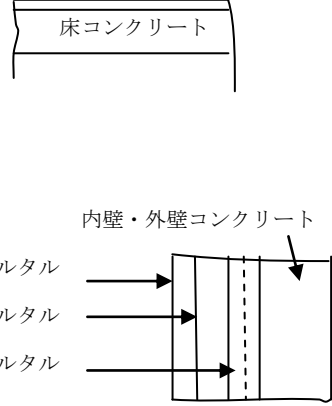
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
14	金 属 工 事	2 表 面 処 理	3	鉄の亜鉛メッキ付着量	溶融亜鉛メッキ鋼板	F12またはZ12最少付着量は両面の合計 120g/m ² 以上	JISG3302 (溶融亜鉛メッキ 鋼板および鋼帯)		
					電気亜鉛メッキ	2種3級(片面の厚さ 8μm)以上	JISH8610 (電気亜鉛メッキ)		
					溶融亜鉛メッキ	2種HDZ35 (有効付着量350g/m ² 以上)	JISH8641 (溶融亜鉛メッキ)		

(単位：mm)

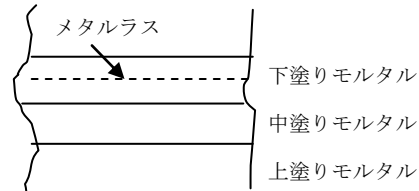
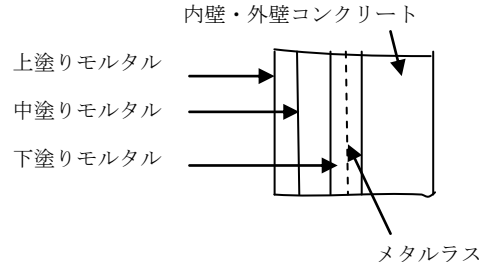
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
14	金属工事	8 手すり及びタラップ	2 (b)	手すり	高さ：H 縦棧の隙間：b 下部や側面の隙間 ：h	床面から1,200以上 足掛かりから850以上 幅広足掛かりから1,200以上 110以下 90以下	全箇所測定。		

1 4. 左官工事

(単位：mm)

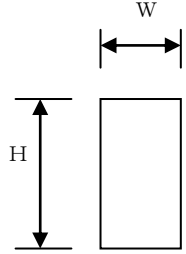
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
1 5	2			塗 厚	・コンクリート、コンクリートブロック、 床 内壁、外壁、その他 ・メタルラス、ワイヤラス、鉄板ラス、溶接金物 内 壁	・上塗り 2 5 ・下塗りまたはラスこすり 6 ・むら直し 0～6 ・中塗り 6 ・上塗り 3～6 ・下塗りまたはラスこすり ラス表面より 1 内外厚くする。 ・むら直し 0～6 ・中塗り 6 ・上塗り 3～6	全箇所測定。	上塗りモルタル  床コンクリート 内壁・外壁コンクリート 上塗りモルタル 中塗りモルタル 下塗りモルタル	JASS 15-1998

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
15	2			塗 厚	・メタルラス、ワイヤス、 鉄板ラス、溶接金物、 天井・庇 外壁、その他	・下塗りまたこすり ラス表面より1内外 厚くする。 ・中塗り 6 ・上塗り 3～6 ・下塗りまたこすり ラス表面より1内外 厚くする。 ・むら直し 0～9 ・中塗り 0～6 ・上塗り 6	全箇所測定。	 	

15. 建具工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
16	6	3		寸法許容差	・部位寸法 見込み 見付け ・建具寸法 H、W ・くるい 反り 対角線長の差 対角線長 (1000mm 以下の場合)	±0.5 ±1.0 ±3.0 3.0 2.0 1.0	全箇所測定。		

木製建具の見込み寸法 (mm)

建具寸法	洋式建具	雨戸・ガラス・障子	紙障子	襖 (溝幅)
W：900未満 H：1000未満	25～30	25～30	24～30	21
W：900未満 H：1000以上1800未満	30～36	30	27～30	21
W：900未満 H：1800以上2200未満	36～40	—	—	—

(単位：mm)

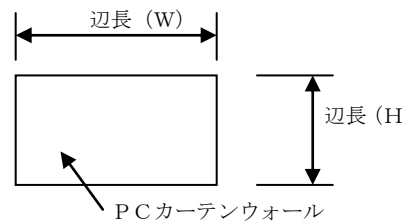
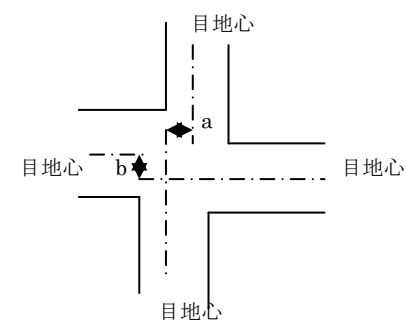
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
1 6	1 0	4		鋼製シャッター 取付寸法許容差	内法幅：B 内法高さ：H ガイドレール 倒れ： δ 溝幅：W まぐさ 水平：h 間隙：b	± 4 ± 4 ± 4 ± 2 ± 4 ± 2	全箇所測定。	鋼製シャッター	J A S S 1 6 — 1 9 9 8
	1	3		防火シャッター	停止距離 (人とシャッター 下端との接触 後)	5 0 以下	全箇所測定。	物体に接触位置 停止位置 防火シャッター下端 5 0 mm 以 下	

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
16	13	3		単板ガラス厚 6mm・8mm	面クリアランス エッジクリアランス 上、縦—固定部 可動部 下一固定部、可動部 掛かり代	5以上 4以上 3以上 4以上 6.5かつガラス厚の1.2倍以上	全箇所測定。		
				単板ガラス厚 8mm・10mm	面クリアランス エッジクリアランス 上、縦—固定部 可動部 下一固定部、可動部 掛かり代	5以上 4以上 3以上 7以上 ガラス厚の1.2倍以上			
				複層ガラス厚 総厚18mm以下	面クリアランス エッジクリアランス 上、縦—固定部 可動部 下一固定部、可動部 掛かり代	5以上 4以上 3以上 7以上 15以上			

16. カーテンウォール工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
17	カ ー テン ウ ォ ー ル 工 事	3	5	PC カーテンウォール	辺長H・W	±3	全箇所測定。		
				製作精度許容値	対角線長の差	+5			
					板厚	±2			
					開口部内法寸法	±2			
					ねじれ、反り	+5			
					曲り	+3			
					面の凹凸	+3			
					先付け金物の位置	+5			
				取付位置関係の寸法許容差	目地幅の許容差	±3			目地の交差点で検測。
					目地心の通り	+2			
					目地両側の段差	+2			
					各階の基準墨から				
					各部材までの距離	±3			

17. 塗装工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
18	1	7		現場塗装工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚 平均値は、目標塗 膜厚合計値の9 0%以上。 b. 測定値の最小値 は、目標塗膜厚合 計値の70%以 上。 c. 測定値の分布 の標準偏差は、目 標塗膜厚合計値の 20%を超えな い。ただし、測定 値の平均値が目標 塗膜厚合計値より 大きい場合はこの 限りではない。	塗装終了時に測 定。1 ロットの 大きさは500 m²とする。1 ロ ット当たりの測 定数は25点と し、各点の測定 は5回行い、そ の平均値をその 点の測定値とす る。	・管理点を定め塗膜厚を測定する。	

18・内装工事

(単位：mm)

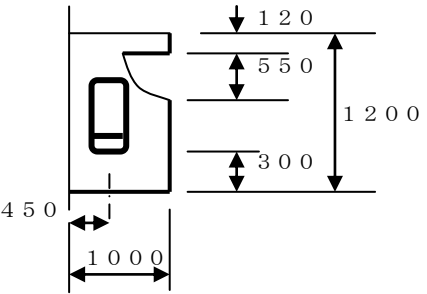
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
19	1	2		シックハウス	ホルムアルデヒド 濃度	0.08PPm以内 (0.08PPm ／30分平均値)	全室測定。	・ 部屋を完全に閉め切る。 ・ 測定機器は床から1.2～1.5mの位置に設置する。	

19. ユニット及びその他の工事

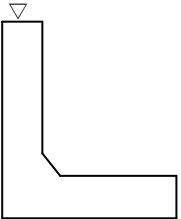
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
20 ユ ニ ッ ト 及 び そ の 他 の 工 事	2 ユ ニ ッ ト 工 事	3 可 動 間 仕 切		可動間仕切りの遮音性能	透過損失の目安 アルミパーティション スチールパーティション 高遮音間仕切り	15dB程度 30dB程度 36dB以上	全箇所測定。	・各部屋	
		4 移 動 間 仕 切		移動間仕切りの遮音性能	透過損失（500Hz） 一般タイプ 遮音タイプ	36dB未満 36dB以上			

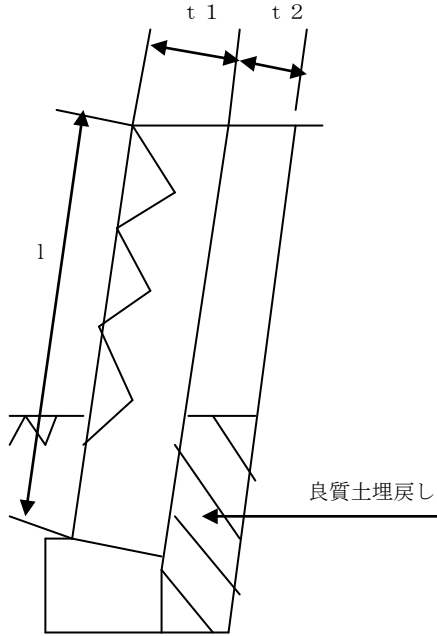
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
20	2	5	(d)	トイレプールの寸法	・和風便器	(標準寸法)	全個所測定。		
					壁縦幅：D	1,200			
					壁横幅：W	1,000			
					後方壁と扉開閉部離隔	120			
					扉開閉幅：B	550			
					便器前端と壁との離隔	300			
					壁と便器中心との離隔	450			
					・洋風便器（横入り）				
					壁縦幅：D	1,400			
					壁横幅：W	1,000			
					後方壁と扉開閉部離隔	120			
					扉開閉幅：B	550			
					壁と便器中心との離隔	500			
					・洋風便器（縦入り）				
					壁縦幅：D	1,400			
					壁横幅：W	1,000			
					横壁と扉開閉部離隔	120			
					扉開閉幅：B	550			

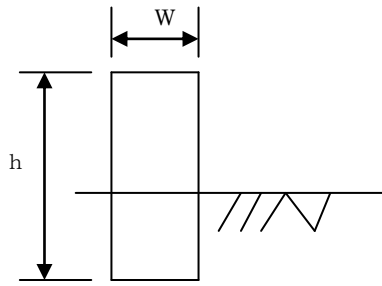
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
20	3	4		プレキャスト ト擁壁工	基準高：▽	±50	施工延長40m(測点 間隔25mの場合は 50m)につき1箇 所、延長40m(また は50m)以下のもの は1施工箇所につき 2箇所。		土木工事 施工管理 基準準 用。
					延長：L	－200	1施工箇所毎		

(単位：mm)

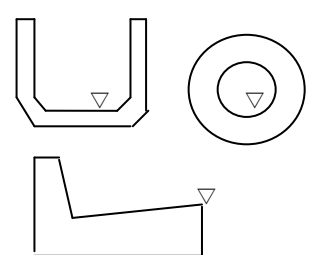
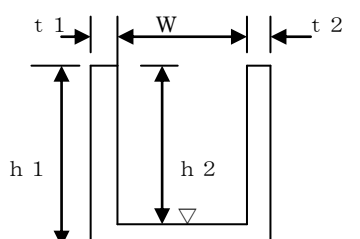
章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
20 ユニ ニッ ト及 びそ の他 の工 事	4 間知 石及 びコ ンク リト 間知 ブ ロッ ク積	3 工 法		コンクリ ートブロッ ク工(コンクリ ートブロッ ク積)・石積 (張)工	基準高：▽		±50	施工延長40m(測点 間隔25mの場合は 50m)につき1箇 所、延長40m(また は50m)以下のもの は1施工個所につき 2箇所。厚さは上端部 及び下端部の2箇所 を測定。		土木工事施 工管理基準 準用。
					法 長 l	$l < 3\text{m}$	-50			
						$l \geq 3\text{m}$	-100			
					厚さ(積・張)：t1		-50			
					厚さ(裏込)：t2		-50			
					延長：L		-200			
					注水検査			200㎡につき原則 として1回の割合で 測定する。天端面また は法面に打継面を貫 通するように穿孔・注 水し、減水状態を確認 する。		

(単位：mm)

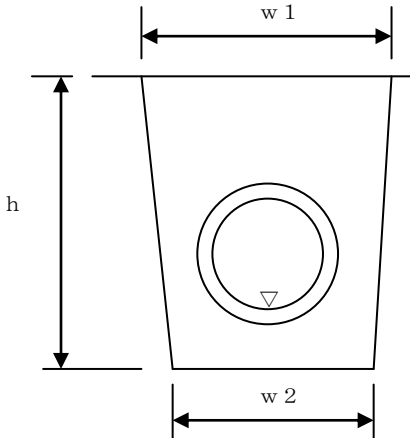
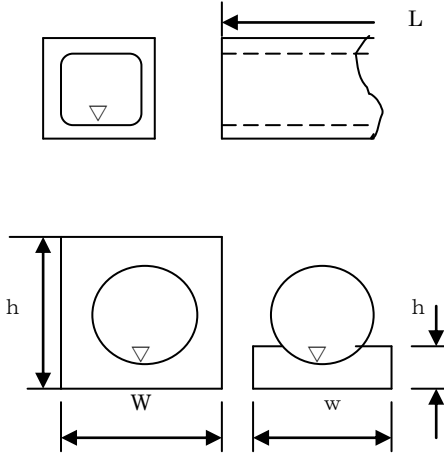
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
20	5	3		敷地境界石標	幅：W 高さ：h	—10 —10	10基につき1基、 10基以下のものは 2基測定。		土木工事施 工管理基準 準用。

20. 排水工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2 1	3	3	1	側溝工 ・プレキャスト U 型側溝 ・L 型側溝工 ・自由勾配側溝 ・管渠	基準高：▽	± 3 0	施工延長 4 0 m（測点間隔 2 5 m の場合は 5 0 m）につき 1 箇所、施工延長 4 0 m（又は 5 0 m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		土木工事施工管理基準準用。
					延長：L	－ 2 0 0	1 箇所／ 1 施工箇所		
			2	現場打水路工	基準高：▽	± 3 0	施工延長 4 0 m（測点間隔 2 5 m の場合は 5 0 m）につき 1 箇所、施工延長 4 0 m（又は 5 0 m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所		
					厚さ： t 1 t 2 幅： W 高さ： h 1 h 2	－ 2 0 － 2 0 － 3 0 － 3 0 － 3 0			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2 1	排 水 工 事	3	3	暗渠工	基準高：▽ 幅：w 1、w 2 深さ：h	± 3 0 － 5 0 － 3 0	施工延長 4 0 m (測点間隔 2 5 mの場合は 5 0 m) につき 1 箇所、施工延長 4 0 m (又は 5 0 m) 以下のものは 1 施工個所につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。)		土木工事施工管理基準準用。
					延長：L	－ 2 0 0	1 箇所／1 施工個所		
			4	プレキャストカルパート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高：▽ ※幅：w ※高さ：h	± 3 0 － 5 0 － 3 0	施工延長 4 0 m (測点間隔 2 5 mの場合は 5 0 m) につき 1 箇所、施工延長 4 0 m (又は 5 0 m) 以下のものは 1 施工個所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合		
					延長：L	－ 2 0 0	1 施工個所毎		

2 1 . 舗装工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値 の平均 (X10)				
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
2 2 舗 装 工 事	3 路 盤	2 路 盤 の 構 成 及 び 仕 上 り	1	アスファルト 舗装工 (下層路盤)	基準高：▽	± 4 0	± 5 0	—	—	基準高は延長 4 0 m 毎に 1 箇所の割 とし、道路中心線 及び端部で測定。 幅は、延長 4 0 m 毎に 1 箇所の割に 測定。	中規模以上の工事とは、施工面積 2, 0 0 0 m ² 以上。 小規模以下とはアスファルト混合 物使用量が 5 0 0 t 未満、施工面積 が 2, 0 0 0 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 1 0 個に 9 個以上の割合で規定値を満足し なければならないと共に、1 0 個以 上の測定値の平均値 (X 1 0) につ いて満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が 1 0 個未満の 場合は測定値の平均値は適用しな い。	土木工事施 工管理基準 を準用。
					厚さ	－ 4 5	－ 4 5	－ 1 5	－ 1 5			
					幅	－ 5 0	－ 5 0	—	—			
		2	アスファルト 舗装工 (上層路盤)	厚さ	－ 2 5	－ 3 0	－ 8	－ 1 0	幅は、延長 2 0 m 毎に 1 箇所。			
				幅	－ 5 0	－ 5 0	—	—				

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値 の平均 (X10)				
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
2 2 舗 装 工 事	4 ア ス フ ァ ル ト 舗 装	5 工 法		アスファルト	厚さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3	幅は延長 4 0 m 毎 に 1 箇 所 の 割 と し、厚さは、1， 0 0 0 m ² に 1 個の 割でコアーを採取 して測定。 平坦性は舗装施工 便欄による。	中規模以上の工事とは、施工面積 2，0 0 0 m ² 以上。 小規模以下とはアスファルト混合 物使用量が5 0 0 t 未満、施工面積 が2，0 0 0 m ² 未満。	
				舗装工 (表層工)	幅	－ 2 5	－ 2 5	—	—			
				平坦性	3 mプロフィルメーター (σ) 2. 4 mm以下。							

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値 (mm)			測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 (X10)			
						中規模 以上	小規模 以下	中規模以上			
22 舗 装 工 事	3 路 盤	2 路盤 の構 成及 び仕 上り	1	コンクリー ト舗装工 (下層路盤 工)	基準高：▽	±40	±50	—	基準高、幅は、延 長40m毎に1箇 所の割に測定。	中規模以上の工事とは、施工面積 2,000㎡以上。 小規模以下とはアスファルト混合 物使用量が500t未満、施工面積 が2,000㎡未満。	
					厚さ	-45		-15			
					幅	-50		—			
			2	コンクリー ト舗装工 (粒度調整 路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m 毎に1箇所。	厚さは、個々の測定値が10個に9 個以上の割合で規定値を満足しな ければならないと共に、10個以上 の測定値の平均値 (X10) につい て満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の 場合は測定値の平均値は適用しな い。	
					幅	-50		—			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘 要	
						個々の測定値 (X)					1 0 個の測定値 の平均 (X10)
						中規模 以上	小規模 以下				中規模以上
2 2 舗 装 工 事	5 コ ン ク リ ー ト 舗 装	4 工 法		コンクリート 舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚さ	－ 1 0	－ 3 . 5	幅は、延長 4 0 m 毎に 1 箇所。	中規模以上の工事とは、1 層あたりの 施工面積が 2 , 0 0 0 m ² 以上。 厚さは、個々の測定値が 1 0 個に 9 個以上の割合で規定値を満足しなければ ならないと共に、1 0 個以上の測定値の 平均値 (X 1 0) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 1 0 個未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。		
					幅	－ 2 5	－				
					平坦性	3 mプロフィールメーター (σ) 2 . 4 mm以下。					平坦性は舗装施工 便欄による
					目地段差	± 2		全箇所測定。			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値 の平均 (X10)			
						中規模 以上	小規模 以下	中規模以上			
2 2 舗 装 工 事	6 カ ラ ー 舗 装	5 工 法	1	薄層カラー舗 装工（下層路盤 工）	基準高▽	± 4 0	± 5 0	—	基準高は、延長 4 0 m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心 線及び端部で測定。厚さ は、1 箇所を掘り起こして 測定。幅は、延長 4 0 m 毎 に 1 箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面 積が 2, 0 0 0 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が 5 0 0 t 未満あるいは施工面積が 2, 0 0 0 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 1 0 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しな ければならないと共に、1 0 個の測定 値の平均値（x 10）について満足し なければならない。ただし、厚さの データ数が 1 0 個未満の場合は測定 値の平均値は適用しない。	
					厚さ	－ 4 5		－ 1 5			
					幅	－ 5 0		—			
			2	薄層カラー舗 装工（上層路盤 工）粒度調整路 盤工	厚さ	－ 2 5	－ 3 0	－ 8	厚さは、1 箇所を掘り起こ して測定。幅は、延長 4 0 m 毎に 1 箇所の割に測定。		
					幅	－ 5 0		—			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 (X10)			
						中規模 以上	小規模 以下	中規模以上			
22	6	5	3	薄層カラー舗 装工（基層工）	厚さ	－9	－12	－3	幅は、延長40m毎に1箇 所の割に測定。厚さは、1 000㎡に1個の割でコ アーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないと共に、10個の測定値の平均値（x10）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
					幅	－25		—			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値 の平均 (X10)			
						中規模 以上	小規模 以下	中規模以上			
2 2 舗 装 工 事	7 透 水 性 ア ス フ ア ル ト 舗 装	5 工 法	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高：▽	± 5 0		—	基準高は、片側延長 4 0 m 毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m 毎に 1 箇所の割で測定。 幅は、片側延長 8 0 m 毎に 1 箇所測定。		
					厚さ	t < 1 5 cm	— 3 0	— 1 0			
						t ≥ 1 5 cm	— 4 5	— 1 5			
					幅	— 1 0 0		—			
			2	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	— 9		— 3	幅は、片側延長 8 0 m 毎に 1 箇所測定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m 毎に 1 箇所コアーを採取し て測定。		
					幅	— 2 5		—			

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値の 平均 (X10)				
						中 規 模 以上	小 規 模 以下	中 規 模 以上	小 規 模 以下			
2 2 舗 装 工 事	8 排 水 性 ア ス フ ァ ル ト 舗 装	5 工 法	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高：▽	± 4 0	± 5 0	—	—	基準高は、片側延長 4 0 m 毎に 1 箇所 の 割 で 測 定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m 毎に 1 箇所 の 割 で 測 定。 幅は、片側延長 8 0 m 毎に 1 箇所測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いたうえでの管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が 3 , 0 0 0 t 以上の 場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
					厚さ	－ 4 5	－ 4 5	－ 1 5	－ 1 5			
					幅	－ 5 0	－ 5 0	—	—			
			2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	－ 2 5	－ 3 0	－ 8	－ 1 0	幅は、片側延長 8 0 m 毎に 1 箇所測定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m 毎に 1 箇所 の 割 で 測 定。		
					幅	－ 5 0	－ 5 0	—	—			

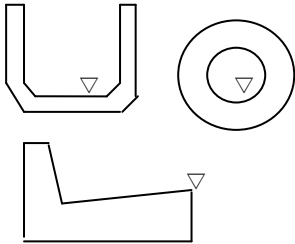
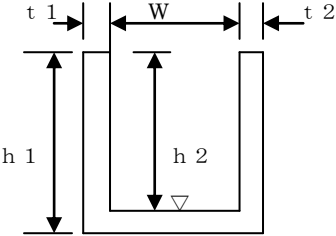
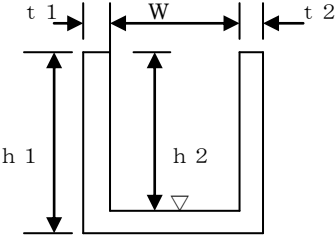
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値の 平均 (X10)				
						中 規 模 以上	小 規 模 以下	中 規 模 以上	小 規 模 以下			
2 2 舗 装 工 事	8 排水 性ア スフ アル ト舗 装	5 工 法	3	排水性舗装工 (基層工)	厚さ	－ 9	－ 1 2	－ 3	－ 4	幅は、片側延長 8 0 m毎に 1 箇所測定。 厚さは、1 0 0 0 m ² 毎に 1 個の割でコ ア－を採取して測 定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を 描いたうえでの管理が可能な工事を いい、基層及び表層用混合物の総使 用量が 3， 0 0 0 t 以上の場合は該 当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合は該当する。	
					幅	－ 2 5	－ 2 5	—	—			
			4	排水性舗装工 (表層工)	厚さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3			
					幅	－ 2 5	－ 2 5	—	—			
					平坦性	—		3 mプロファイルメ ータ 2． 4 mm以 下。 直読式（足付き） 1． 7 5 mm以下。				

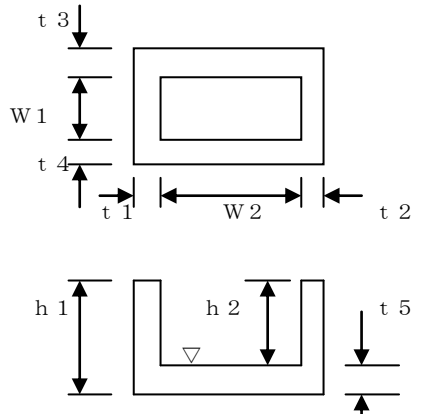
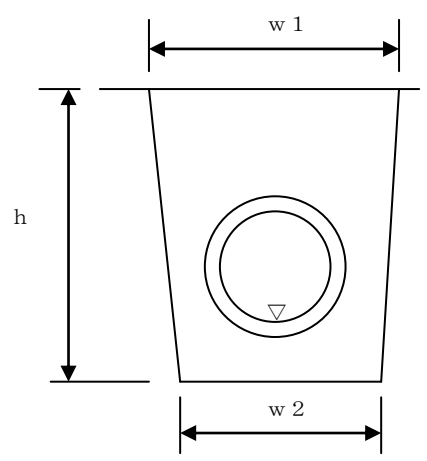
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘 要				
						個々の測定値 (X)		1 0 個の測定値 の平均 (X10)							
						中規模 以上	小規模 以下	中規模以上							
2 2 舗 装 工 事	9 ブ ロ ッ ク 舗 装 工	4 工 法	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高：▽	± 4 0	± 5 0	—	基準高は、片側延長 4 0 m毎に 1 箇所割の測定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m毎に 1 箇所割の測定。 幅は、片側延長 8 0 m毎に 1 箇所測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2 , 0 0 0 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 5 0 0 t 未満あるいは施工面積が 2 , 0 0 0 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 1 0 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないと共に、1 0 個の測定値の平均値 (x 10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 1 0 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。					
					厚さ	－ 4 5		－ 1 5							
					幅	－ 5 0		—							
			2	ブロック舗装工 (上層路盤工)	厚さ	－ 2 5	－ 3 0	－ 8	幅は、片側延長 8 0 m毎に 1 箇所測定。 厚さは、片側延長 2 0 0 m毎に 1 箇所割の測定。						
					幅	－ 5 0		—							
			3	ブロック舗装工 (基層工)	厚さ	－ 9	－ 1 2	－ 3	幅は、片側延長 8 0 m毎に 1 箇所測定。 厚さは、1 0 0 0 m ² 毎に 1 個の割でコアを採取して測定。						
					幅	－ 2 5		—							

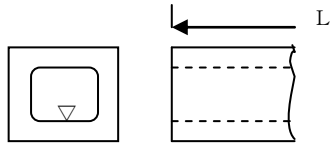
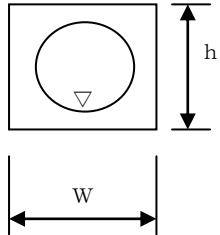
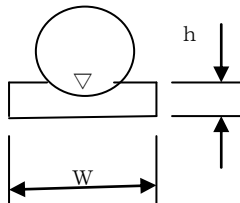
(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要			
2 2	舗 装 工 事	1 0	街 渠 緑 石 及 び 側 溝	3	工 法	1	縁石工 (縁石、アスカーブ)	延長：L	－ 2 0 0	1 箇所／ 1 施工箇所		
						2	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高：▽	± 3 0	施工延長 4 0 mにつき 1 箇所、4 0 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
								延長：L	－ 2 0 0	1 箇所／ 1 施工箇所		
				3	現場打水路工	基準高：▽	± 3 0	施工延長 4 0 mにつき 1 箇所、4 0 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。				
						厚さ：t 1、t 2	－ 2 0					
						幅：W	－ 3 0					
						高さ：h 1、h 2	－ 3 0					
						延長：L	－ 2 0 0	1 施工箇所毎				

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2 2	1 0	3	4	集水桝工	基準高：▽	± 3 0	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合。		。
					※厚さ： t 1 ～ t 5	－ 2 0			
					※幅W 1、W 2	－ 3 0			
					※高さ： h 1、h 2	－ 3 0			
			5	暗渠工	基準高：▽ 幅：W 1、W 2 深さ：h	± 3 0 － 5 0 － 3 0	施工延長4 0 mにつき1 箇所、 4 0 m以下のものは1 施工個 所につき2 箇所。		
					延長：L	－ 2 0 0	1 施工箇所毎		

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要			
2 2	舗 装 工 事	1 0	街 渠 縁 石 及 び 側 溝	3	工 法	6	プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高：▽	± 3 0	施工延長 4 0 mにつき 1 箇所、4 0 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。		
								※幅：W	－ 5 0			
								※高さ：h	－ 3 0			
							延長：L	－ 2 0 0	1 施工箇所毎			
												

2 2. 植栽及び屋上緑化工事

(単位：mm)

章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
2 3 植 栽 及 び 屋 上 緑 工 事	3 植 樹	2 材 料		植栽工	樹高（高木） 幹周（高木） 葉張（高木） 枝張（高木） 数量（高低木）	± 0	全 本 数 を 測 定 し、数量は全本 数をチェックす る。		土木工事施 工管理基準 適用
	4 芝 張 り	3 芝 張 り の 工 法		芝張工	幅 長さ 面積	－ 3 0 mm － 5 0 mm 設計値以上	全箇所測定。		土木工事施 工管理基準 適用